

第一節 変化を受け止める

神が直々につくられたこの神示教会で手にできるのは、人生を悔いのないものとする事です。それをひと言で表すなら、開運ということになります。これは、人のことではなく、自身の問題です。

開運を実現するには、人生の最小単位である一日一日を大切に、的を射た生き方をする事です。神の教えを学び、社会がどこに向かって流れているのかを知り、世の動きをつかんで的確に判断しながら、人生を悔いのないものとしていくのです。

ですから、神示を学ぶことが不可欠です。神示に触れていると、社会におけるさまざまな事象も、なぜ起きているのかが分かります。真理に触れることで、人はどう生きなくてはいいのかがつかめます。

信者というと、特定の宗教を信仰する人と思うかもしれませんが。しかし、神が意図される信者とは、神から与えられた運命、世に役立つ力を信じて生きる人です。そこまで心が引き上げられた人なのです。まことの信者になることです。

神は、家族で教えを学び、家庭に生かす努力を呼び掛けられています。なぜ家族で教えを学ぶ必要があるのかといえば、家族の体を成していない家庭が多いからです。家庭というものをしっかりと見詰めることが必要です。

家族で教えを学べば、家族の関わりが深まり、確実に守られていきます。教えが反映された家庭は、夫婦の仲が良いものです。当然、親子の仲も良いでしょう。この環境が、心が安らぎ、魂が安らぐ家庭です。

肉体に宿された魂が運命となつて、人生を導いていきます。その魂が安らぐ家庭の環境があれば、運命が引き出されます。家族仲良く、健康に恵まれ、仕事に対しても意欲的になつて、生活に事欠くことなく、常に夢、希望を持って暮らせます。つまり、悔いのない人生を歩み抜くことができません。

家庭の環境に真理を生かすことです。人類が知らない真理が、まだまだたくさんあります。家庭の在り方も、健康を維持する方法も、仕事に向ける心のありようも、全く知らずに生きている人々がたくさんいます。そこに、さまざまな問題が起きてきます。

真理を学び、時代の流れに乗って生きることです。流れに乗るためにも、繰り返し神の教えに触れるのです。

神 示

神の手の中 運命 命を宿され 「生きる」万物全てが 時代の流れの中に生かされている